

昭和59年度  
(1984)  
第24回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

団体戦男子は、順当に札幌藻岩が8連勝。

女子の決勝戦は、札幌清田と初出場の札幌新川の争い。ダブルスは札幌清田が快勝。シングルスNo.1は山下(札幌新川)が頑張り、個人戦優勝の佐藤(札幌清田)に勝ったことで、シングルスNo.2にまでもつれ込んだ。昨年の再現かと、息詰まる試合展開の中、二川(札幌新川)の気力も力尽き、阿部(札幌清田)が押し切った。札幌清田は1年ぶり4度目の優勝。

個人戦男子は、札幌藻岩勢が強く、特に山田(札幌藻岩)は、団体・単・複の三冠に輝いた。女子では、札幌清田勢が勝ち進む中で、唯一人山下の健闘が光った。

藤原、竹高、川端(以上札幌藻岩)、阿部(札幌清田)、山下(札幌新川)の2年生、坂本の1年生と、1・2年生の将来楽しみな選手が多いだけに今後に期待したい。

【 全国大会 】

団体戦男子の札幌藻岩は、北海道初のインターハイ第8シードがついたなかで、レギュラーメンバー4人中3人が2年生という若いチームでありながら、期待通りの活躍を見せた。

3回戦で、中国地区No.1チームを破り、シードを守った。3回目のベスト8の札幌藻岩だが、ベスト4の壁は厚く、今大会の第1シードで優勝、松岡・土橋を擁する柳川(福岡)には完敗した。今後はベスト4の壁を破れるだけの力をつけ、更に切磋琢磨して欲しいものである。

団体女子の札幌清田は、エースの佐藤を始め故障に泣かされ、本来のベストメンバーで臨めず、十分に力を発揮できずに、2回戦で敗れ去った。

個人戦では、山田(札幌藻岩)がよく健闘し、ベスト16に進出、北海道2度目の全国高校ランキング選手に入るとともに、来年度のボーナスポイント(出場枠増)を勝ち取ることができた。ダブルスでも、藤原山田組がベスト8をかけよく戦ったが、最後に押し切られてしまった。

女子では、ダブルスで佐藤・阿部組(札幌清田)がベスト16に進出。他は、組み合わせに恵まれなかった。

1年生・2年生の全国大会出場選手は、この大会の経験を生かして、一層の努力を期待したい。

( 専門委員長 緒方 壽人 )

## 優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

「負けるはずがない」と思い、決勝戦のコートの中に立った。左右には2年生の3人が同じ気持ちで立っていただろう。

昨年まで先輩方が築き上げた連勝記録はV7、自分たちが作るV8だった。

試合の前日、先生に、「今までの伝統を守ろうとしてはいけない。今からスタートだと思え」と言われたが、やはり試合の前になると「もし負けたら……」と思ってしまふ。だが、「あれだけ練習をやってきたんだ、負けるわけにはいかない」と思った。

試合は楽勝のムードのまま進んでいった。「よし、やった!」と思い、僕は新川高校シングルスNo.1の打った球を見送った。球はコートの外へ大きく外れていき、地面に落ちた瞬間に、優勝とV8が決まった。我々は、全国大会へのキップを手に入れるためには、この全道大会も目標の一つだった。しかも完全優勝で……、これは最上級生として、部長としての使命であった。試合は結局3-0で新川高校をくだした。他の試合も3-0、2-0と、応援と選手の気迫が一本となり、最高のムードとなり圧勝することができた。

あの時の喜びは、部長、シングルスNo.1として忘れることのできない感激だった。この感激をこれからも感じることができるよう、1年生、2年生の活躍を期待している。そして、ずっとご指導をいただいた先生を喜ばせ続けるように、頑張っしてほしいと思う。

最後に、ご指導をいただいた先生、学校の諸先生方に心から感謝を申し上げます。

( 札幌藻岩高校 主将 山田耕司 )

## 優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

去る6月13日、14日、室蘭市高砂テニスコートで行われた、北海道高等学校庭球選手権大会で、我が札幌清田硬式庭球部は、2年ぶりの栄冠を勝ち取ることができました。優勝の瞬間のあの感激は、勝負の世界に身を置いたことのある者にしか味わうことのできないものだと思います。このすばらしい感激を味わいたいために、私たちは、雨の日も、嵐の日も、雪の日も、毎日毎日、つらく厳しい練習、トレーニングに取り組んできました。その夢がかなったのです。本当に、これ以上の喜びはありません。

優勝したといっても、決して楽な試合ではありませんでした。反省すべき点も数多くあります。団体戦は、準決勝まで比較的楽なペースで試合が運んだものの、決勝の新川戦では、苦戦を強いられました。ダブルスの青木・坂本組はワンサイドで新川を降しましたが、シングルスNo.1の佐藤が5-7で落としてしまいました。シングルスNo.2の阿部の頑張り

で、なんとか勝利を手にすることができましたが、最後まで、どっちが勝つかわからない緊張の連続の試合展開でした。私自身は、だらしない試合をしてしまいましたが、阿部のふんばり、そして3年生の青木、1年の坂本のペアのがんばりは、日頃の練習の成果を発揮して、すばらしいものだったと思います。

もちろん、この勝利は、私たちレギュラーだけの力で勝ち取ったものではありません。レギュラーのために走り回ってボールを拾ってくれた1年生、2年生。そして、陰で私たちを支えてくれた3年生、みんなの力です。部が一つにまとまってこそ、この勝利が得られたものと思います。また、時には厳しく、時には優しく私たちを指導してくださった顧問の先生あつての優勝だったと思います。本当にどうもありがとうございました。

最後に、今後、ますますの清田高校庭球部の発展を期待します。

( 札幌清田高校 主将 佐藤高栄 )

全国高校総体（第74回全国高等学校庭球選手権大会） 秋田

8月1日～7日

秋田県立向浜運動広場テニスコート

秋田市営運動公園庭球場

男子 個人戦シングルス 優勝 松岡 修造（柳川）

準優勝 土橋登志久（柳川）